

「いい歯と健康」市民講座を開催 「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会

「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会（以下連絡会）は11月17日長野市生涯学習センターで市民公開講座「いい歯と健康」を開催した。

今回は松本歯科大学障害者歯科学講座の小笠原正教授が、「いつまでもおいしく食べるための備え、そして食べられなくなったら、どうするか？」のテーマで市民向けに講演。

講演後、県歯科衛生士会協力のもとに正しい歯の磨き方の指導コーナーを実施した。昨年は歯磨き指導だけを行ったが、今年は希望者に染め出し体験もしてもらった。

小笠原教授の講演では、食べることの意義から口腔ケアの重要性、誤嚥性肺炎の説明や、窒息時の対処法まで幅



16名が訪れた歯の磨き方指導の会場

広く解説。口腔内を清潔にしておくことは、健康な人にはもちろん、要介護高齢者にも必要であること、全身の食べられなくなったとき胃腸に頼ることになったとしても、スプーン一杯でも口から食べられるものを模索していくことが重要であることを画像や動画を織り交ぜながら、分かりやすく説明した。

講演後の歯科衛生士による正しい歯の磨き方には、16名の参加者があり、歯の磨き方は手鏡を見ながらの解説、歯ブラシの選び方に関しては、様々な歯ブラシの実物を見てもらいながら説明していた。また、参加者の中から特

に要望のある方については、待機していた歯科医師3名が相談に応じた。

参加者からは、「講演はとても分かり



40名程が参加の「いい歯と健康」市民公開講座の小笠原教授の講演会場で

中医協での歯科関係の論点 その2

中医協総会での歯科関係の課題と論点、うち「論点」部分に平成26年4月改定にかかわる内容が記載されている。前号では「歯科医療その1」（7月31日）の論点を紹介した。今回は「歯科医療その2」（11月22日分）を紹介する。

各ライフステージの口腔機能の変化に着目した対応

(1)小児期において、正常な口腔機能の獲得・成長発育を促すために、乳歯の早期喪失等について、どのような対応が考えられるか。

(2)成人期以降において、口腔機能の維持・向上を図るために、舌接触補助床等に関する調整を含めた訓練の評価や歯周治療用装置の要件についてどのように考えるか。

(3)有床義歯の管理や調整等、口腔機能の維持・向上に着目した評価について、患者の視点も踏まえつつ、どのような対応が考えられるか。

歯の喪失のリスク増加に伴う対応

(1)歯周病安定定期治療の評価体系の見直しを含め、歯周病治療の評価の見直し等について、どのように考えるか。

(2)根面う蝕に対する非侵襲的な処置を含め、高齢者における歯の喪失リスクへの対応について、どのように考えるか。
(3)歯の保存に資する根管治療に4根管の評価を新たに設定すること等、歯内治療の評価について、どのように考えるか。

なお、全身的な疾患を有する者への対応は、前号紹介の「歯科医療その1」でそのまゝ再掲されていたので略した。

12月歯科部会論議

根管貼薬処置の評価見直しに反対

中医協総会資料の歯科部分を討議し

医業経営と雇用管理 開業医会員に配布

保団連の経営対策シリーズとして数年おきに改版発刊される「医業経営と雇用管理」の2013年改定版が12月10日発行となり、長野県保険医協会では開業医会員に12月12日送付開始で一両日中に発送を終えた。お手元に届いているか、ご確認いただきたい。

本書は、2010年以来の改版で、雇用管理の基礎知識から始まり就業規則の意義と記載事項まで15の章で構成され、各種様式集も収められている。

全身の疾患別処方を考える ④ 喘息患者への投与

長野市 原山歯科医院 原山周一郎

今回は、喘息のある方の処方を解説します。成人気管支喘息の約10%に「アスピリン喘息」があると言われていいます。アスピリン喘息の臨床的特徴として、小児に比べ30～40歳代の成人の女性に多いです。（男女比 2：3）です。臭覚異常、鼻茸（ポリープ）、副鼻腔炎、慢性鼻炎、の方が多いと言われています。

アスピリン喘息の3徴候は、鼻茸、喘息、NSAIDs過敏症(酸性、塩基性)です。アスピリン喘息が疑われる場合は、ほとんどのNSAIDsは、禁忌です。アセトアミノフェン(カロナール)は、喘息誘発率が低いと言われていますが、これも使わない方が安鎮痛剤の処方例

レシビ1	ツムラ立効散エキス顆粒	1回2.5g	食前または食間服用	与3回
レシビ2	キョーリンAP2配合顆粒	1回0.5g	疼痛時服用	与3回

抗菌剤の処方例

レシビ1	フロモックス(100mg)	1日3錠	分3	毎食後	与3日
レシビ2	サワシリン(250mg)	1日3カプセル	分3	毎食後	与3日

やすく、よかった」「今まで行っていた歯の磨き方は不十分であったと感じた」など、好評であった。

なお、同日の講座開催前に連絡会の構成団体が総会を行い別掲の通り次年度の活動方針を決めている。

てきた12月9日の長野県保険医協会の4地区電話会議の歯科部会では、一口腔単位300点で来ていた歯周病安定定期治療の単位見直しへの危惧、また歯の保存の観点から4根管の新設評価は当然だが、根管貼薬処置の評価見直し(5回以降減減)の動きは、同じ観点から大きな矛盾で見直しに反対で一致した。また届出医療や周術期などは評価されるが、多くの診療所に影響する頻度の高い基礎的な診療行為に手をつけられないことが問題との見方だった。部会では、諮問後に出てくる具体的点数項目で再度論議、時期に応じた必要な対応をしていく予定だ。

全です。唯一使えるのは、ツムラ立効散エキス、キョーリンAP2配合顆粒で

す。気管支拡張剤(テオフィリン、テオドールなど)とマクロライド系(クラリスなど)、ニューキノロン系(クラビットなど)との相互作用で血中濃度を上昇させ、悪心、嘔吐、不整脈が現れるという報告があります。そのため、ペニシリン系(サワシリン)、セフェム系(フロモックスなど)が、喘息の第一選択になります。

今回は腎障害患者への投薬です。



「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会の2014年度活動方針(2013/11～2014/10)

1. 出前講演会の開催..口腔と全身との関わり合いをより知っていただくために、より多くの出前講演会の開催を目指します。

2. 各種相談活動..歯のなんでも電話相談だけでなく、歯の磨き方講座やお口の相談などに取り組み、全国連絡会で毎年取り組んでいる「イレバデーからイイハデー」のキャンペーンにあわせた活動も行うように目指します。

3. 市町村議会への対応..残る7市町村での意見書採択を目指します。

4. 国会請願署名..全国連絡会や保団連、民医連などと協力しながらの実施を検討します。

5. 団体との懇談..会内の連携を強めるための参加団体同士での懇談だけでなく、運動を広げ、連絡会への参加、協力を広げるために他団体への懇談、要請も行うよう努力します。

6. 参加団体の拡充..現在12団体ある参加団体ですが、今後参加団体をさらに増やし、より大きな運動ができるように訪問活動などを強化するよう努力します。

7. 連絡会の財政の確立..連絡会運動を保障する財政の確立のため、団体、個人会費の徴収を行います。

8. 歯の供養祭と義歯のネーム入れの企画..全国で実施している歯の供養祭と義歯のネーム入れについて長野連絡会でも実施を検討します。



上は12月12日以降に送付配済